

発語が無いAさんへの表出性コミュニケーション支援の実践

～「Aさんが意思を伝える」を支援してきた15年間の取り組み～

〒807-0075

北九州市八幡西区下上津役3丁目1番26号

TEL/FAX 093-612-6045

MAIL kuwanomi@jcom.home.ne.jp

HP <http://www.kuwanomi.org/>

社会福祉法人 桑の実会

障害福祉サービス事業所 桑の実工房

生活支援員 仲本 篤志

法人・事業所 紹介



【桑の実工房3番館 外観】

社会福祉法人

桑の実会

障害福祉サービス事業所

桑の実工房

社会福祉法人 桑の実会の沿革



共同作業所開所
 地域に日中活動の場をつくるため
 特別支援学校教員が立ち上げる

社会福祉法人認可
 小規模通所授産施設

自立支援法施行
 障害福祉サービス事業

多機能事業所
 生活介護20名
 就労継続支援B型10名

定員増
 生活介護30名
 就労継続支援B型10名

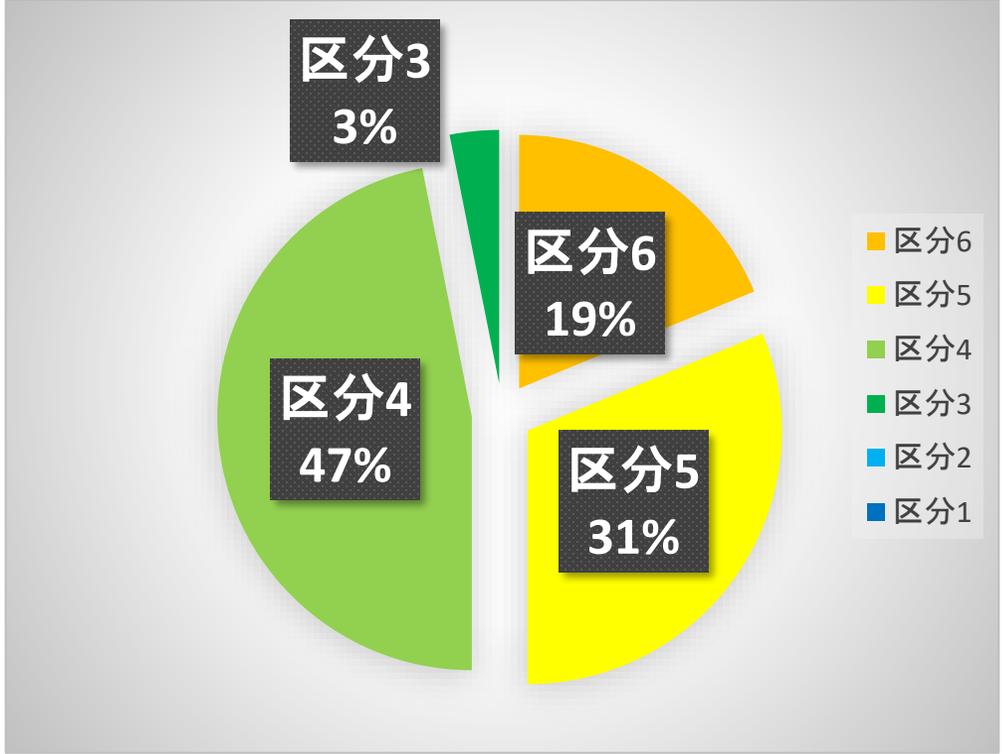
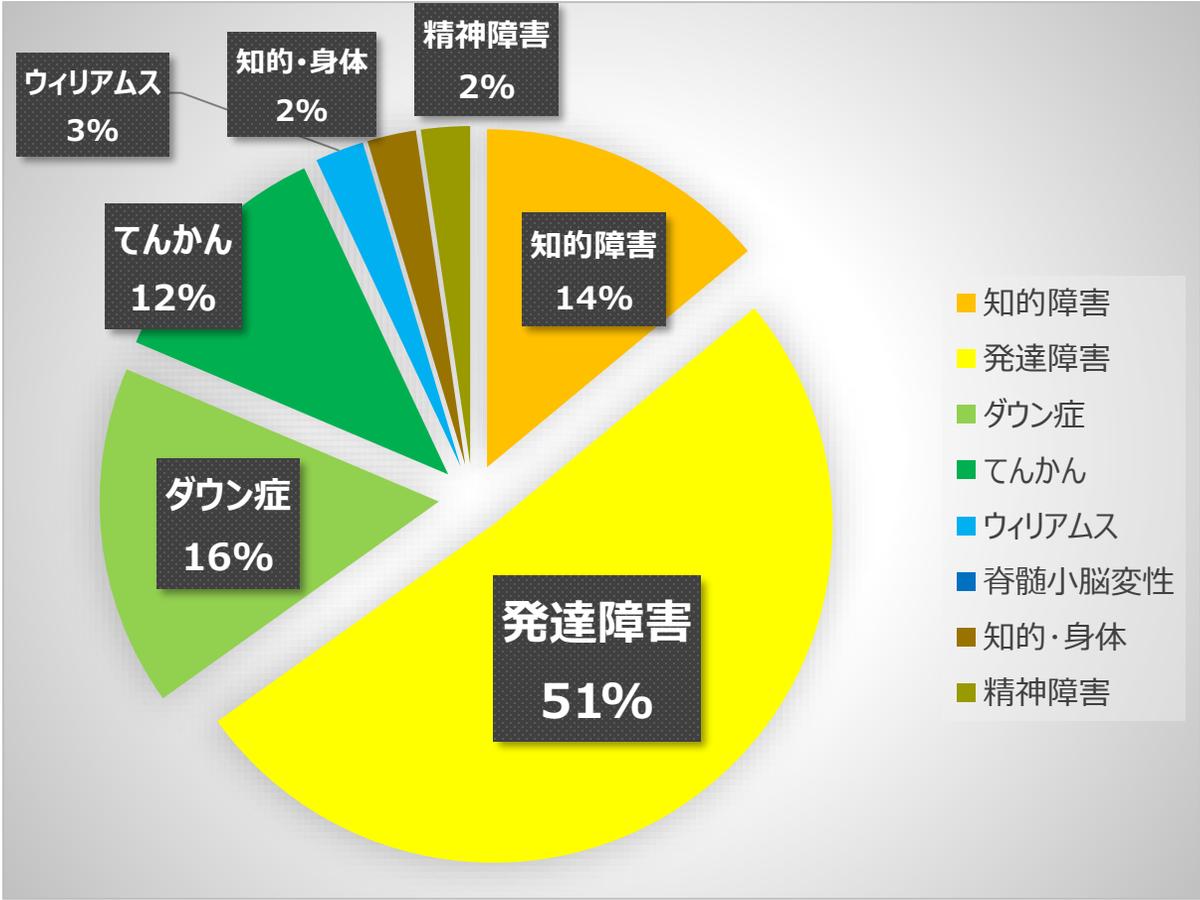
現在利用者
 生活介護31名
 就労継続支援B型12名

【生活介護】利用者の状況

利用登録者数 31名 < 男性17名・女性14名 >
平均年齢 33.3歳 21歳～61歳

【就労B型】利用者の状況

利用登録者数 12名 < 男性12名 >
平均年齢 32.8歳 20歳～50歳



～桑の実工房が目指していること～

ひとりひとりの今と将来のより良い暮らしを実現するために
生き物のように変化する事業所を創り上げます。

「仕事」「暮らし」のプログラムをひとり1人のニーズに応じて
個別支援計画を立案し実施します。

仕事

＜就労継続支援B型・生産活動＞

- 就労継続支援B型＜PC解体＞
- クラフト商品製作
 - ◆染色 ◆木工
 - ◆アートクラフト ◆小倉織
- 昼食調理
- 受託作業
- 販売
 - ◆展示会
 - ◆委託販売
 - ◆バザー

暮らし＜生活支援＞

- 健康診断
- 入浴
- スポーツ活動
- サークル活動
- 居住区活動
- アート活動
- 桑の実ホーム生活
- 買い物
- 金銭管理
- 宿泊支援



買い物



健康診断



暮らしのマナー



掃除

生活支援



宿泊支援



スポーツ



居住区活動



アート活動

商品製作

◇染色

- 草木染めストール等
- 藍染めハンカチ

◇木工

- キッチンツール
- 靴べら・時計 等

◇アートクラフト

- シルクスクリーン
- デザイングッズ 等

◇小倉織

- ストラップ 等

昼食調理

◇所員・職員 40食

- 生活介護・生産活動として

企業連携

◇事業所外就労

- (株)アンカーネットワークサービス
- * 業務内容：PC解体・分別

◇SDGs

- * 大英産業 北九州みらいキッズプロジェクト
- * 小倉縞縞

◇ポスティング

- * 毎日メディア 大英産業

WORK
桑の実
工房

受託作業

◇長期契約

- ふきん端切 <八幡西区：日本デンソー>
- 珈琲バルブ付 <遠賀郡：ウインドファーム>
- 洗剤箱詰め <小倉南区：タイシン九州>

◇短期契約

- 封入・発送作業 <八幡東区：市共同受注C>

商品販売

◇店舗委託販売

- * 一丁目の元気 <小倉北区京町>
- * 市内 <6か所>
- * 市外 <2か所 中間1・鞍手1>
- * 県外 <2か所 長崎1・熊本1>

◇販売会

- * 法人主催 <8月・11月>

◇出店

- * イベント・地域行事バザー 計13カ所

支援事例

発語の無いAさんが
ITツールを活用して日常的に
意思を伝えられるようになってきた事例

Aさん

- 桑の実工房利用15年目 34歳
- 知的障害 自閉スペクトラム症 ※カトニアがある
- 障害支援区分5 療育手帳A1
- 好きなこと 高校野球を観る
料理
スケート
剣玉
- 好きな作業・活動・・・調理作業、ポスティング、水泳



Aさん < 表出 > 実態

- 発語無し
- 問いかけに対して「がっ」「だっ」のような発声はできるが
意思はわかりにくい
- 書字は難しい
- ジェスチャーは動作が小さいため相手に伝わりにくい

Aさんの表出における課題

表出する力が非常に弱い

- 表情や行動の微細な変化から相手に汲み取ってもらう必要がある

汲み取れる相手は家族や 長年関わりのある支援者

- 「わかる人にはわかる」という状態

汲み取ってもらうことが日常に

- 意思表出機会はますます減る
- 伝えたい気持ちも薄れる

カトニアがある上に、

自発的な意思表出が難しい

- トイレの失敗や、お茶を飲みたい時に飲めないなどAさんが困る事態が起こる

Aさんの<表出> 3つのターニングポイント

①トークアシスト ～ITツールとの出会い～ <「伝える」を繰り返す>

【平成12年～23年】

②専用アプリの開発 と iPodへの移行 <「伝えたい」を引き出す>

【平成24年～27年】

③Drop Talkの活用 <「伝えたいことを伝える」を日常に>

【平成28年～現在】

トークアシスト～ITツールとの出会い～

明電ソリューション
システム株式会社が
開発した携帯用
会話補助装置



約300個のシンボルが、
22のグループに分類

トークアシスト導入の経緯

- 幼児期から学齢期にかけてK学園（心理・言語）に通う
 - ジェスチャーによる意思伝達を覚える
 - 11歳頃
「トークアシストというツールがあり、Bさんに合うのでは」と
K学園職員から勧められる
⇒ 1週間試してみて好感触だったため購入し、使い始める

トークアシスト使用場面

- 出勤後「おはよう」
- 作業報告「はい」 ※「できました」等が無く代用
- 昼食・昼休み「台拭き」「歯磨き」「トイレ」
- 退勤時「さようなら」

はい
(できました)



トークアシストの課題



◇工房での日常生活に必要な
シンボルが無い

◇シンボルの数がAさんにとって過多

◇使いたいシンボルに辿り着くまでに
複数回の操作を要する



Aさんの実生活に合った内容のツールが必要



専用アプリの開発へ

専用アプリ開発への想い

Aさんが伝えられる場面をもっと増やしたい！！

- したいことを伝えられるように
- 困っていることを伝えられるように
- Aさんと会話したい <Aさんが話しているような声と言葉で>

開発の場 < ITコミュニケーション支援研修 >

- 平成24年5月～25年3月 毎月1回実施
- 職員4名がITコミュニケーション支援ツール作りにチャレンジ
< 仲本 > Aさん専用アプリ
- アプリをインストールするため機器をiPodに移行
- 九州工業大学大学院 客員教授 本田氏と開発を進める

専用アプリの完成

□ 試作 ⇒ 使用 ⇒ 修正を繰り返し、2年の歳月をかけて完成させる

Aさんが使うことに
特化した内容

本人の実態から

- ・ページの構成
- ・シンボルの数
- ・配置
- ・画像
- ・音声 を考案



1~2回の操作で
目的のシンボルへ。
シンプルな操作性

工房の生活で
必ず使うシンボルを
複数入れ、
「毎日」
「一日の中で何度も」
使えることを意識

専用アプリの成果

「次どうしますか？」の問いにツールで答える場面が増加

- 「トイレに行きます」
- 「お茶を飲みます」
- 「(昼食費の)会計をします」
- 「(作業の)確認してください」 など

毎日、複数回ツールを使うようになった

- トークアシスト時代に比べ、伝える経験を積みやすくなった
- Aさんの「伝えたい気持ち」が向上し始める

専用アプリの限界

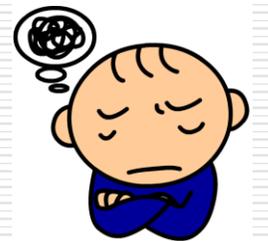
□ 平成28年以降のAさんの変化

- 場面は限定的であったが、日常的にツールを使うことが定着
- 「どうする？」と尋ねられるとiPodを手にする姿が増える
- 活動の幅は年々広がり、比例して様々な意思表示が必要になってくる

一方で・・・

□ 専用アプリのデメリット → 工房職員がデータ編集できない

□ Aさんの変化に支援が追い付かない状況が生まれる



【専用アプリ】から【市販アプリ】へ

- 2008年に開発された[DropTalk](#)
 - 当時は既存シンボルのみ・・・市販アプリの弱点
 - 10年以上経過し、オリジナルシンボル作成等ができるように

- ・専用アプリのデメリットを解決できる
- ・機器はiPodが使える
- ・10年以上全国で活用されている = 使い易さと信頼

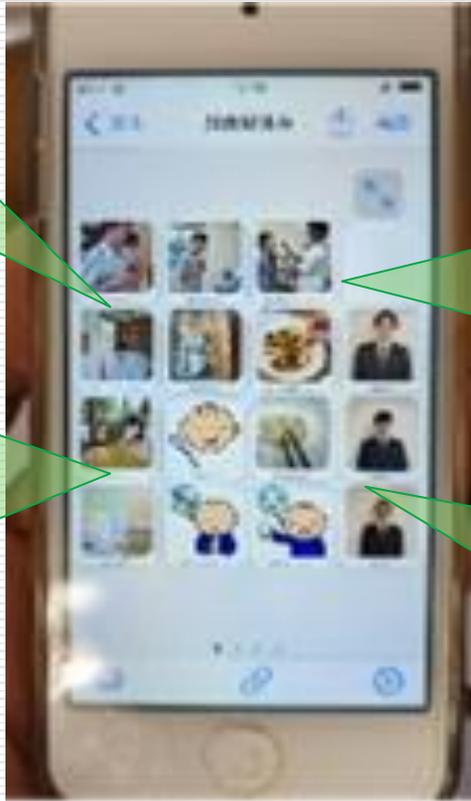
Aさんが「伝える」を
続けられるように...
もっと伝えられるように...
DropTalkを活用しよう！



DropTalkをカスタマイズ

本人写真を使って
シンボル作成

Aさんが日常的に
取る行動や
伝えたいであろう
要求や依頼を
可能な限りシンボル化



慣れた場面では
最大15種類の
シンボルを自分で
使い分けて表出

「いつか支援者を呼べたら・・・」
という想いで
支援者シンボルも配置

「伝えたいこと」を「相手にわかり易く」伝える

検温を
お願いします

朝礼に行きます

鞆を
片付けてきます



「伝える」ことで 自分の意思に基づいた毎日に

「トイレに行きたい」を
自発的に伝える

- 支援者、作業を問わず伝えるようになった
- トイレの失敗が年0～1回に減少

「お茶を飲みたい」を
自発的に伝える

- 毎日、様々な場面で自ら水分摂取ができるように

生活場面で「〇〇して下さい」
援助依頼を伝える

- 歯みがきの仕上げ依頼、魚の骨の除去依頼 など
- 難しいことは支援者を頼り、自分の生活をより良くしていく

作業で「〇〇をしたい」
自分の意思を伝える

- したい工程などを選択できるようになった
- 自分で選んだ工程で意欲的に作業できる

グループホームで意思を伝える

- 好きなメニューを「おかわりしたい」と伝えられるようになってきた
- 「まだ食べたい」「ごちそうさま」で残りの食事をどうしたいか確認できるように

Aさんの「伝える」を15年支援する中で・・・

悩み
葛藤

支援の成果
出てる・・・？

同じ取り組みの
繰り返しだけど・・・



(自分の支援力の未熟さ故に)
この支援の仕方
本当に良いのだろうか・・・

「伝えさせている」感じが
否めない・・・

支援を続けられたのは・・・



チームとして
共に支援する
仲間の存在

本人を
最も理解する
家族の協力

本人が
伝えられた時の
喜び・嬉しさ

Aさんへの思い
【意思を伝えられることで
Aさんの暮らしが
より良いものにな
ってほしい】

Aさんと共に目指した未来が、いま現実に

平成25年
コミットの会主催セミナー
「重度の知的障害・発達
障害がある方への支援を
考える」にて

当時のAさん事例を
発表した最後のスライド

5年後、10年後、20年後、こうしたい

5年後…今あるアイコンを毎日使えるように

☆Best→トイレに行きたいを伝えられる

何か気付いてほしいときに「仲本さん」

10年後、20年後…新しい支援者や仲間「伝わる」

楽しさをAさんが感じられるように

☆Best→「〇〇君」「遊ぼう」

昔のように、好きな仲間を誘ってほしい

ご清聴

ありがとうございました